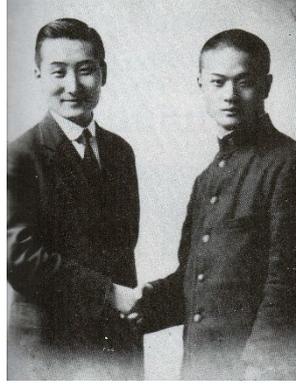


④ 僑日共済会跡

新大橋通りを東に入って緑道公園を北に曲がるとすぐ僑日共済会跡である。僑日共済会は関東大震災からほぼ1年前の1922年9月21日に、当時の大島3丁目278番地（現在の江東区大島3丁目15番地辺り）に設立された。今は緑道公園になっているが、昔は都電砂町線（38系統）が走っており、大島三丁目の停留所の付近であった。成立大会には公使館から江秘書官も出席した。委員は20名で王希天が委員長になった。（写真左が王希天、右は次の委員長候補であり、震災後に被害者名簿作成の中心となった王兆澄）



緑道公園の入口の向かいあたりにいつも激しく労働争議をやっていた大島製鋼があった。僑日共済会には、医療部、教育部（日本語学

校）、慰問部などが設けられて労働者の生活支援などが行われた。また対外的には、賃金不払いや、労働者への暴力行為に対して交渉し、あるいは退去攻撃から労働者を守り、身分安定の行政交渉を行った。

名古屋（22年4月結成）、大阪、京都にも支部ができた。

また、このすぐ近くには（3丁目223）、平沢計七が住んでおり、労働争議などを闘っていた。平沢も9月3日の夜、自宅で逮捕され、亀戸警察署内で虐殺された（亀戸事件）。亀戸警察署特高蜂須賀等にとっては、王希天を中心にする僑日共済会と、同じ頃設立され、似たような活動をしていた南葛労働協会（翌年1月、南葛労働会に改称）や平沢計七の純労働者組合とは同じようなものとして認識されていた。



（写真上：共済会跡（右の車のある家の辺り）、下は共済会の仲間）

⑤ 麻一族虐殺現場

大島6丁目、中の橋商店街の中程に虐殺現場がある。9月3日、この路上で麻一族を中心とする23人の中国人が宿舎から引っ張り出されて虐殺された。大島6丁目633番地に住んでいた人は一人を除いて原籍が同じ青田一都であり、麻姓が17人、邱さんが2人、楊、詹、張、徐さんが各1人である。

すぐ西側には東京瓦斯（その後公団住宅となる）があり、ここには9月3日の朝と昼100人位の日本人労働者がおしかけ、1人が虐殺され、1人が頭部に受傷している。



中の橋商店街北詰、千葉街道を超えたところに、かつて東洋モスリンがあり、そこには野重第三旅団司令部が陣取っていた。この麻一族の虐殺及び東京瓦斯の襲撃も戒厳軍の容認のもとで行われた。